

(1) 教 員 個 人 調 書 (CV)

フリガナ	コマツ カヨコ	
氏 名 (Name)	小松 加代子	
学 歴 (Academic Record)		
年月 (YYMM)	事 項 (Descriptions)	
昭和55年3月	津田塾大学学芸学部国際関係学科 卒業 (文学士学位を取得)	
昭和61年6月	リーズ大学 (イギリス) 宗教学部大学院修士課程卒業。修士論文『An Empirical Study of Matriarchy Groups in Contemporary Britain and their relationship to new religious movements』にて、M. A. By research 学位を取得	
平成2年3月	筑波大学博士課程哲学思想研究科宗教学専攻単位取得満期退学。修士論文『ロバート・ベラーにおける思想的背景とその展開』にて、文学修士学位を取得	
職 歴 (Career Record)		
年月 (YYMM)	事 項 (Descriptions)	
昭和55年4月	エプソン株式会社 入社 (～昭和55年9月まで)	
昭和58年4月	リーズ大学中国学部日本語コース非常勤講師 (日本語担当) (～昭和61年7月まで)	
昭和62年4月	日本学術振興会特別研究員 (～昭和63年3月まで)	
昭和63年4月	文化学院芸術専門学校高等科非常勤講師 (英語担当) (～平成1年3月まで)	
平成2年4月	北鎌倉女子学園短大設置準備室 勤務 (～平成3年3月まで)	
平成3年4月	湘南国際女子短期大学国際教養学科講師(女性学・アメリカ研究演習・比較宗教担当) (～平成6年3月まで)	
平成3年9月	洗足学園短期大学英文学科非常勤講師(英語購読・英米文芸思潮担当) (～平成5年3月まで)	
平成5年4月	恵泉女学園短期大学英文学科非常勤講師(女性学担当) (～平成5年3月まで)	
平成6年4月	湘南国際女子短期大学国際教養学科助教授(～平成12年3月まで)	
平成12年4月	湘南国際女子短期大学国際ビジネス学科助教授(～平成15年3月まで)	
平成15年4月	湘南国際女子短期大学国際ビジネス総合学科助教授(～平成19年3月まで)	
平成19年4月	多摩大学グローバルスタディーズ学部准教授	
平成26年4月	多摩大学グローバルスタディーズ学部教授(現在に至る)	
(前審査)	[大学設置・学校法人審査会教員組織審査判定]	
平成2年7月	湘南国際女子短期大学の設置申請に伴う教員資格審査において、女性学・アメリカ研究演習・比較宗教の専任・講師として適格判定。	
平成12年4月	湘南国際女子短期大学国際ビジネス学科設置認可申請。教員資格審査免除。	
平成15年6月	湘南国際女子短期大学国際ビジネス総合学科名称変更申請。教員資格審査免除。	
平成19年4月	多摩大学グローバルスタディーズ学部の設置申請に伴う教員資格審査において、女性と家族・宗教と自己形成：日本の事例・文化としての英語学習の専任・准教授として適格判定。	
平成21年8月	教員資格審査において、キリスト教の世界観の専任・准教授として適格判定。	
平成22年10月	教員資格審査において、英語集中教育：リーディングI・II、英語集中教育：ファイニングI・II、英語集中教育：リスニングI・II、英語集中教育：スピーキングI・IIの専任・准教授として適格判定。	
平成23年10月	教員資格審査において、「体の治療と心の癒し」「身体表現と日本人の自己形成」の専任・准教授として適格判定。	
学会及び社会における活動等 (Activities at Conference and Society)		
現在所属している学会 (Academic Society Membership)	日本宗教学会 日本女性学会 国際ジェンダー学会 筑波大学哲学思想学会	
年月	事 項	
	(社会における活動等)	
平成12年4月	国際宗教研究所 評議員(～平成17年3月)	
平成16年7月	逗子市男女共同参画プラン推進会議 議長(～平成18年6月)	
平成16年9月	逗子市男女共同参画プラン検討委員会 委員長(～平成18年3月)	
平成19年4月	「宗教と社会」学会常任委員 (～平成21年6月)	
平成21年8月	藤沢市総合計画審議会委員および起草部会委員 (～23年8月まで)	
平成23年9月	藤沢市総合計画審議会委員および進捗部会委員 (～平成24年8月まで)	
平成24年4月	藤沢市ふじさわ男女共同参画プラン推進協議会委員	
平成26年4月	藤沢市ふじさわ男女共同参画プラン推進協議会会長 (～平成26年3月)	
平成28年4月	藤沢市ふじさわ男女共同参画プラン推進協議会委員 (～現在に至る)	

## ( 2 + 3 ) 教 育 研 究 業 績 書

(Teaching and Research Record)

研究分野 (Field of Research)	研究内容のキーワード (Keywords of Research)	
哲学 ジェンダー	宗教学 ジェンダー	
<b>(2) 教育上の能力に関する事項 (Teaching Records)</b>		
事項 (Items)	年月日 (YYMMDD)	概 要 (Descriptions)
1 教育方法の実践例	平成4年7月 平成13年4月 平成16年4月 平成20年4月  平成20年4月	情報処理技能評価試験学内開催 (～平成18年1月) アドヴァイザークラス担当 (～平成16年3月) オフィスアワー担当 (～現在に至る) 「文化としての英語学習」の授業において、「文化としての英語学習」担当者全員で話し合いを進め、学生の基本的な英語能力の強化訓練を目標に、内容検討を行った。日本人独特の聞き間違いなど、日本人が教えることによって学生が英語を勉強することをつかみ、さらに練習を進めるよう授業を工夫した。また他の授業についての質問や、疑問に答える機会も提供した。 「宗教と自己形成：日本の事例」において、地元の宗教行事に学生と参加し、日本のさまざまな宗教的な活動への理解への一助としている。(～現在に至る)
2 作成した教科書、教材		
1) 模擬試験作成	平成4年7月	ワープロ検定関連模擬試験作成・実施 (～平成18年1月)
2) 教科書執筆『宗教学入門』 (4・5章の5項目)	平成17年	同書は大学の教養課程向けの教科書として作成され、版を重ねている。
3 教育上の能力に関する自己評価 (Self evaluation of own teaching competency) 平成12年～25年前期・授業評価アンケート		学生による授業評価アンケートにおいて、授業の内容、教授法、授業への熱意等に関し高い評価を得た。
4 実務の経験を有するものの特記事項 (Special remarks for those who have experiences of non-academic careers)		
・大学市民講座 (藤沢市共催)	平成7年9月	担当講師『宗教と癒し』
・女性問題啓発講演会 (藤沢市共催)	平成9年	オープンカレッジ「女性学」 (～現在に至る)
・セミナー講師	平成12年	藤沢市湘南台公民館女性セミナー講師
・セミナー講師	平成13年	藤沢市市役所男女共同参画社会啓発講習会
・セミナー講師	平成13年	藤沢市片瀬公民館女性セミナー講師
・セミナー講師	平成14年	藤沢市大庭公民館女性セミナー講師
・大学市民講座 (藤沢市共催)	平成15年9月	担当講師「ジェンダー」って何？-誰もがその人らしく-
・生涯学習プログラム	平成16年4月	生涯学習講座「フェミニズム」担当 (～平成17年3月)
・生涯学習プログラム	平成16年9月	Word入門 (～平成18年1月)
	平成17年2月	出張講座 (大和東高校) 「ジェンダー論」
・セミナー講師「世代間断絶を結びなおす」2回	平成26年	藤沢市女性学習グループ学習会講師
5 その他 (Others)		該当なし

( 3 ) 研究業績等に関する事項 (Research Records)

著書, 学術論文等の名称 (Title of Books and Papers)	単著・共著の別 (single or co-author)	発行又は発表の年月 (Date of Issues)	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称 (Publisher/Journals/Conference Presentation)	概要 (Descriptions)
<p>(著書)</p> <p>1 書評 田中雅一編『女神 聖と性的人类学』</p> <p>2 鼎談「いのちのつながり」の現在</p> <p>3 教科書執筆 第4・5章</p> <p>4 編著書 湘南VIRAGO著『藤沢発 オープンカレッジから生まれた女たち - 女性学から実践へ』</p> <p>5 ポール・ブロックマン「インサイド・ストーリー」</p> <p>6 「メタファーとレトリック」</p> <p>7 Gendering Religious Studies in Japan</p> <p>8 編著書『宗教とジェンダーのポリティクスーフェミニスト人類学のまなざし』</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成12年</p> <p>平成15年</p> <p>平成17年</p> <p>平成18年</p> <p>平成19年</p> <p>平成22年</p> <p>平成25年</p> <p>平成28年</p>	<p>『宗教研究』No. 324</p> <p>『現代宗教2003』東京堂出版</p> <p>『宗教学入門』ミネルヴァ書房</p> <p>生活思想社</p> <p>『宗教学文献事典』弘文堂</p> <p>『宗教学事典』丸善</p> <p>Gender, Religion and Education in a Chaotic Postmodern World, Zehavit Gross, Lynn Davies and Khansaa Diab eds., Springer-Verlag (2012/12/5) 111-123頁。</p> <p>昭和堂</p>	<p>人類学の見地から書かれた各地の女神に関する研究諸論文への書評。女神をキーワードに論文が集められた点は評価しつつも、現代社会とのつながりへの視点が欠けている点を指摘した。</p> <p>波平恵美子・柘植あづみ両氏との生殖医療と宗教・慣習をめぐっての鼎談。</p> <p>「聖と俗」「ジェンダー」「ファンダメンタリズム」「差別」「先祖祭祀」「見えない宗教」の6項目を執筆。棚次正和・山中弘編</p> <p>湘南国際女子短期大学と藤沢市とが平成9年から実施しているオープンカレッジ参加者の有志のその後の活躍を、共著の形で出版。小松加代子編</p> <p>事典の中の「メタファーとレトリック」の項目を担当</p> <p>This paper is an attempt by Japanese feminist scholars of religion who strive to redress the in-built male-centered structure and gender blindness prevalent in the academy</p> <p>川橋範子との共著。自身の論文は第7章「日常の中の宗教性ー日本におけるスピリチュアリティと女性」</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1 デュルケムにおける社会概念</p> <p>2 estにおける個 - アメリカ現代新宗教の一例</p> <p>3 ロバート・ベラーにおける思想的背景とその展開 (修士論文)</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>昭和57年3月</p> <p>昭和58年3月</p> <p>昭和58年7月</p>	<p>比較思想の途、No. 1.</p> <p>比較思想の途、No. 2.</p> <p>筑波大学</p>	<p>デュルケムは、宗教経験の一種特別な感覚の客観的かつ普遍的しかも永久的な原因である存在を「社会」とした。この社会は限定されたものではなく、現実社会が作り出す理念によっても構成されており、その理想を周期的に創造することによって自らを作り、また作る。</p> <p>1970年代にアメリカで起こった運動の一つであるestは、個人的経験を強調するものの、真の自己に気づくことを重視し、それを通して社会に開かれるという側面を持つことにより、功利的利己主義とは異なっている。しかしながらその楽観的傾向がアメリカ社会全体に及ぼす影響を限定している。</p> <p>ベラーは現実社会と理想社会を重ね合わせつつ機能している社会を、宗教的共同体として据え、アメリカ社会における「市民宗教」という枠組みを提示した。これは一方で宗教社会学的見地が抱えている還元主義への批判でもあった。また言葉が歴史的現実と理想とを媒介する象徴であることを指摘した。宗教それ自体の意味を承認し、それが還元されえないとするベラーの立場について論じた。</p>

4 Matriarchy Groups in the U.K. -a research note	単著	昭和60年3月	Religious Today Vol. 2, No.1	女性の身体的な特徴が自然との調和を保つ通路であり、また精神的にも女性は現在の競争社会の原理とは異なる協調原理を持っているとする女性グループが存在している。現存する政治・宗教運動には見出すことのできなかったある女性たちの人生の意味を模索する運動の調査の経過報告である。
5 An Empirical Study of Matriarchy Groups in Contemporary Britain and their relationship to new religious movements (修士論文)	単著	昭和61年3月	イギリス・リーズ大学	過去に存在していた母権制社会は文化の発展に貢献し、精神的に現代社会よりも優っていたと考え、その考え方にしたがって女性の力を見直そうとするグループの活動を調査した。彼女たちの運動には、60年代の政治運動、70年代のさまざまな宗教運動に関わった人々との共通点を見出すことができる。既成宗教を否定し、自然との調和を取り戻そうとする彼女たちの政治・宗教という境界を越えた独創的な活動を宗教社会学的に位置づけようとしたものである。
6 都市とリヴァイヴァリズム-19世紀後半のアメリカ社会	単著	平成4年	アメリカの宗教 井門富二夫編 大明堂	19世紀後半のアメリカ、都市化の進む中で大都市を中心にムーディのリヴァイヴァルが起こった。広く歌われた賛美歌の歌詞のメタファーを検討することによって、家庭を安らぎの場所とし、イエスを友人と考える感情的なテーマを見ることができる。つまりこのリヴァイヴァルは田舎や伝統的な価値観を基礎としつつ、都会に出てきた人々が大都市での生活に順応するように促す潤滑的機能を果たしていたことを指摘した。
7 宗教言語とリアリティ	単著	平成4年	湘南国際女子短期大学 紀要、vol. 1.	宗教で用いられるメタファーは指示内容を確定できなくとも指示を行う可能性を持つというソスキースの主張を確認し、その新しい可能性を持った動きとして、フェミニズム進学とメタファー進学を取り上げた。
8 宗教活動と女性の役割-世界救世教における自然食運動にかんがみて	単著	平成7年	女性と宗教の近代史 奥田暁子編著	宗教集団において女性たちの活動はその集団にとって重要なものとなっているにもかかわらず、その決定機構に女性は少ない。女性信者たちが自らの存在価値を確かめる方法として自然食運動があることに注目した。
9 やせることはなぜ魅力なのか	単著	平成10年	湘南国際女子短期大学 紀要、vol. 6.	短大の学生へのアンケート調査から、実際の肥満度と乖離した自己評価をしている点が明らかになった。標準体重をかなり下回る値を理想とする傾向は、日本社会一般に見られるものでもある。短大の学生の動態と、社会一般の風潮が、年齢を越えて女性たちに規範として「やせる」ことを課していることを明らかにしようとしたものである。
10 ニューエイジ思想の輪廻観と水子供養	単著	平成12年	湘南国際女子短期大学 紀要、vol. 8.	中絶を殺人とする思想は女性に対しては非常に過酷なものとなるが、それが時代とともに常に絶対的なものとして存在したのではないこと、宗教的教義があいまいにしていることを問題として取り上げ、ニューエイジ思想に見られる輪廻観に新しい視点を見出そうとしたものである。
11 Mizuko kuyo and New Age Concepts of Reincarnation	単著	平成15年	Japanese Journal of Religious Studies, Nanzan Institute for Religion and Culture, 30/3-4	10の論文にさらに調査を加え、日本における新しい宗教運動の流れの中で中絶がどのようにとらえられているかを、海外へ紹介したものである。日本の水子供養が脅しの側面を持っている、あるいは女性の癒しの効果を持っている点とは異なり、あらたな見方として、ニューエイジ思想の輪廻観に共感を持つ人々を紹介した。
12 宗教とフェミニズム・ジェンダー研究-普遍性のジェンダー批判	単著	平成17年	湘南国際女子短期大学 紀要、vol. 12.	フェミニズム・ジェンダー研究が宗教研究にとってもたらしている、あらたな視点を整理することを目的とする。とりわけ、宗教研究の中でフェミニズム・ジェンダー研究が受け入れられにくい原因を探ると同時に、宗教の教義、組織、歴史におけるジェンダーの階層性の問題に焦点をあて、宗教そのものがその階層化を内臓しているのか、あるいはそれを打ち破る存在でありえるのかどうかを問うジェンダーの視点の導入を検討する。

13 女神神学とフェミニスト神学との対話は何を示すのか	単著	平成19年	湘南国際女子短期大学紀要、vol. 14.	フェミニスト神学者のローズマリー・ルーサーは、女神信仰者たちに対し、その女性中心主義であることと根拠が非学問的であると批判してきた。しかし、最近になって、女神信仰者たちの運動をある程度認める方向へと転換を見せている。ここでは、キリスト教内に見られる保守的な偏向に対し、女神信仰をも含めた新しい動きとの連携を探るフェミニスト神学とルーサーの考え方をたどった。
14 女神信仰	共著	平成19年	『ジェンダーで学ぶ宗教学』世界思想社、166-182頁。	宗教学におけるジェンダー的視点を持った研究をまとめて、入門として大学生に向けた本である。この中でイギリス・アメリカで始まった女神信仰が、さまざまな形をとりながら定着し、広まっていく様子を紹介した
15 出産へのまなざし-女神信仰とニューエイジ	共著	平成20年	湘南国際女子短期大学紀要、vol. 15.	女神信仰とニューエイジは、大変関係が深く、同時期に広まり影響しあったものの、ニューエイジの中には、人生の問題の原因を出産時に求め、そこからの回復をうたうものがある。そうした運動の中には、出産が暗く悲劇的なものであるかのようなイメージをもたらすものがあり生の始まりにたいする肯定的な思想をもたない。そうした視点に対して批判した、モニカ・スジョーの思想を中心に論じた。
16 メタファーとしての観音-アジア女性神学から	共著	平成21年	多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要、vol. 1.	キリスト教の聖霊を「観音」を用いて説明するアジア女性神学者が登場している。「観音」という非キリスト教シンボルは、アジアの女性たちの経験とキリスト教の教義とを結ぶ役割を果たしている。アジアの女性神学における観音の意味を検討し、このメタファーが聖書の解釈に新しい視点をもたらすことができるかを論じた。
17. メタファーとレトリック	共著	平成22年	宗教学事典丸善	宗教におけるメタファーの使われ方について、そのレトリック論をまとめた。
18 アカデミアにおける男女共同参画の進捗をはばむのは何か	単著	平成23年	多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要、vol. 3.	日本の宗教関連分野における女性研究者の位置について、ひとつの学会の例を引きながら、今もなお主要な決定の場に女性が少ない事実とその背景を説明した。
19 スピリチュアリティと女性-ジェンダーの視点から	単著	平成24年	多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要、vol. 4.	現代の日本で目に見えない力を求めるスピリチュアル・ブームが見られる。こうしたニューエイジに関連したグループは、その実践が形式化されず流動的であることと、自分の体験が中心にあることから、女性が自分を肯定する方向へと向けられる可能性を持っている。それゆえに組織の中で認められにくい女性のスピリチュアルな権威の獲得の場となっていることを示す。
20 取り戻すこと：フェミニスト・スピリチュアリティにおける癒し	単著	平成25年	多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要、vol. 5.	フェミニスト・スピリチュアリティの運動の核心にあるReclaim (取り戻す) という言葉に注目し、神学者で哲学者のメアリ・デイリー (Mary Daly) と、魔女として幅広い活動をしているスターホーク (Starhawk) を取り上げた。
21 宗教は人々の絆をつくりあげるのか：ソーシャル・キャピタル論とジェンダーの視点から	単著	平成26年3月	多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要、vol. 6.	宗教とソーシャル・キャピタル論の研究は、地域社会での人々のつながりが脆弱になってきた現代社会において、人々の絆を再建するための宗教の役割を考察するものとなっている。ソーシャル・キャピタル論と宗教の議論について、その方法論にある問題を指摘し、ジェンダーの視点から宗教的活動とは何かを検討した。

22 日常生活の中のスピリチュアリティ	単著	平成27年3月 (予定)	多摩大学グローバルスタ ディーズ学部 紀要、vol. 7.	スピリチュアルではあるが宗教的ではないという言葉を手掛かりに、世俗化、個人化、とは異なる現代宗教の捉え方を考える。既成の宗教団体への所属数や儀礼への参加者数の減少が指摘される一方で、ニューエイジやスピリチュアルと名付けられる活動への参加者が増加している。現代日本のなかで、スピリチュアルな考え方やスピリチュアリティに関心のある女性たちの日常生活における宗教性に焦点を当ててみたい。
(その他：学会発表) 1 メタファーと宗教研究	単著	昭和62年	日本宗教学会第46回大会	経験主義、実証主義が非認知的言語とみなすメタファーは、実は科学、宗教などさまざまな領域で有限な言葉を使用して観察不可能なものを描写しようとする試みである。こうした言葉が指示を行うことができるのは、ある知識を伝達してきている言語共同体が成立しているためである。宗教におけるメタファーの研究は、メタファーが指し示すモデルの理解と、その共同体での解釈の変遷をたどることとなる。
2 ムーディーとリバイバルリズム	単著	昭和63年	日本宗教学会第47回大会	1870年代以降のアメリカ社会にみられた前千年王国論の始まりとされるムーディーを、南北戦争以前の後千年王国論と比較することによって、個人主義的な近代の宗教運動の先駆けとし位置づけようとしたものである。
3 宗教と女性	単著	昭和63年	日本宗教学会第58回大会	日本宗教学会で初めて「宗教と女性」をテーマにパネルディスカッションが開かれたもので、その席での全体総括をしたものである。
4 コメント「ジェンダーで学ぶ宗教学の可能性」パネル	単著	平成18年	「宗教と社会」学会第14回 学術大会	小松「ジェンダーで学ぶ宗教学の可能性」パネルでのコメンテーター（「宗教と社会」学会）
5 “Women Researchers in Religion-Related Fields”	単著	平成22年8月	XXth International Association for the History of Religions (IAHR) Quinquennial World Congress	カナダのトロントで開催された国際宗教史学会において、日本の宗教関連分野における女性研究者の位置について、ひとつの学会の例を引きながら、今もなお主要な決定の場に女性が少ない事実とその背景を説明。（パネル Gendering Religious Studiesの1論文として。）
6 コメント「教団改革運動と女性——ジェンダー宗教学の視点から」パネル	単著	平成23年9月	日本宗教学会第70回大会	小松「教団改革運動と女性——ジェンダー宗教学の視点から」パネルでのコメンテーター（日本宗教学会）
7. 司会「フェミニスト人類学がまなざす女性の宗教的实践」パネル	単著	平成25年9月	日本宗教学会第72回大会	小松「フェミニスト人類学がまなざす女性の宗教的实践」パネルの司会（日本宗教学会）
(その他：翻訳) 1 ジャネット・M・ソスキース『メタファーと宗教言語』	単著	平成4年	玉川大学出版	宗教的言説にメタファーが多く使われることから非合理的なものとみなされがちであるが、ソスキースは言語哲学・文学・科学哲学などを包括した現代哲学の問題としてメタファーを取り上げ、メタファーが現実を描写するものとする新しい視点を提供している。
2 ポール・ブロックマン『インサイド・ストーリー』	単著	平成10年	玉川大学出版	近代を支えてきたナラティブを明らかにし、近代がもたらした精神的危機・環境上の危機に対して、近代が誤って捨ててきたナラティブや人生の意味の解釈に再び光をあてて、ポストモダンへ超えるという提案をしているものである。

<p>3 アンダーマール他編 『現代フェミニズム思想 辞典』</p>	<p>共訳</p>	<p>平成12年</p>	<p>明石書店</p>	<p>1968年以降の第二波の時期にフェミニスト理論を構築した諸概念を明らかにし、旅する理論の期限と流用を示すことを目的としているフェミニズム理論の辞典の翻訳。 奥田暁子監訳 樫村愛子・金子珠里・小松加代子訳</p>
<p>(その他：新聞記事) 1. 宗教は人々の絆をつくりあげるか</p>	<p>単著</p>	<p>#####</p>	<p>中外日報</p>	<p>ソーシャルキャピタル論にはジェンダーの視点が不在であるという問題点を指摘した。</p>

(4) 委員会活動その他業績 (Achievement of Committee Activities and Administrative Duties including Admission, Recruitment, Students' Supports and others)

事項 (Items)	概要 (Descriptions)
教務委員長 (平成20年3月～23年3月)	SGSの初年度末の混乱期から3年間、教務関係の事柄の整理、学生指導、カリキュラムの修正などに尽力した。
学生委員・紀要委員長 (平成24年4月～平成28年3月)	
研究活性化委員長 (平成28年4月～平成29年2月)	
茶道サークル顧問 (平成23年4月～現在)	

(5) 大学を代表して行なう地域及び社会的貢献 (Community and Social Contribution as a representative of Tama University)

事項 (Items)	概要 (Descriptions)
藤沢市総合計画審議会委員および起草部会委員 (平成21年9月～23年8月まで)	藤沢市の総合計画の見直しのための審議会委員として任命され、さらにその起草部会委員に指名された。平成21年から2年間ほぼ毎月のように会議に参加した。
藤沢市総合計画審議会委員および進捗部会委員 (平成23年9月～平成24年8月まで)	完成した藤沢市総合計画の進捗管理のための審議会、およびその下部組織の進捗部会委員に指名された。
藤沢市ふじさわ男女共同参画プラン推進協議会委員 (平成24年4月～平成26年3月)	藤沢市のふじさわ男女共同参画プラン2020の管理運営のための協議会委員、および市民意識調査の部会委員も務める。
藤沢市ふじさわ男女共同参画プラン推進協議会会長 (平成26年4月～平成28年3月)	藤沢市のふじさわ男女共同参画プラン2021の後期計画の策定のため、現行プランの検証と市民意識調査の結果を分析、改定に向けて議論するための協議会の会長、および部会委員も務める。
藤沢市女性グループ学習活動振興事業学習会講師 (平成26年12月1日、平成27年1月26日)	藤沢市生涯学習部支援の女性学習グループの講座「世代間断絶を結びなおす」の講師を2回務めた。
藤沢市人権教育・女性学講座講師 (平成28年度3月2日、9日)	藤沢市生涯学習部と多摩大学共催の平成27年度人権教育・女性学講座の講師を2回務めた。
藤沢市ふじさわ男女共同参画プラン推進協議会委員 (平成28年4月～平成30年3月)	藤沢市のふじさわ男女共同参画プラン2020の管理運営のための協議会委員を務める。
藤沢市人権教育・女性学講座講師 (平成29年度2月16日)	藤沢市生涯学習部主催の平成28年度人権教育講座の講師を務めた。